

# 会派代表質問(清水議員)その2

## 小規模農業者を離農させる農政

# 原発の安全性が確保されない現状では再稼働はうなずけない



米原市民報No.416

2014年3月16日 日本共産党米原市議団  
清水隆徳Tel.52-1969 藤田正雄Tel.55-1128  
太田幸代Tel.54-2286

3月3日に会派代表質問が行われました。日本共産党米原市議団を代表して清水議員団長が質問に立ちました。前号に引き続き代表質問と答弁の要旨です。

Q. 国は反当り1万5千円の直接支払交付金を半減し、5年後は減反が廃止される。政府はコメの生産原価を4割下げれば国際的に太刀打ちできるとして原価低減競争をさせようとしている。そして小規模農家を離農させ、大規模農業者に集中させようとしている。この国の農政についてどう考えるのか。

A. 国の新たな農業・農村政策を活用した農地保全、担い手の育成支援を行う。農地保全では、「農地維持支払」や「資源向上支払」を活用し、集落での農地、水路、農道の保全を行っていただきたい。また高齢の方がリタイアされた場合は、地域で話し合っていたいただき、担い手の規模拡大を支援したい。元気な小規模農業者には県や農協と引き続き営農指導を行う。

Q. 国道8号線バイパスでの道の駅整備について規模や魅力ある商品等研究が必要だが、特にJAの協力が必要だ。どう考えているのか。

A. 道の駅整備については、地元生産者の育成、完全安心の農産物の安定確保、魅力ある商品供給等重要課題について農協、生産者、直売所経営者、県農業普及所等意見を聞きながら方針決定をしていきたい。

Q. 米原貨物ターミナル駅について、いつも「早期実現に向け、協議を進める」としていますが、進展が見られない。JR貨物の出方次第とすればいいのではないか。要求すれば資金提供を求められる。

A. 貨物ターミナル駅は重要な社会基盤と考える。1月21日に、JR貨物の社長と面談し要望してきた。この事業での市の負担は無いと考える。

Q. 伊吹パーキングエリアでのスマートインターチェンジは前後のインターの距離から必要性は低いと考える。通行量が少ないと、廃止されるケースもあるが。

A. 柏原地区の活性化、緊急時の輸送道路として利便性向上が図れる。まずは設置に向けての分析調査を行う

Q. 原発について琵琶湖の汚染が心配される。国に対してエネルギー政策を見直し原発再稼働をやめさせ、廃炉に向かうようはっきり言うべきだ。

A. 福井の原発から35kmに位置し、安全性が確保されていない現状では、原発再稼働はうなずけない。再生可能エネルギーの推進をはかりながら、役割を終えた原発は廃炉になることを期待している。

Q. 統合庁舎について、住民合意は出来ていない。住民投票で方向付けを。

A. 庁舎等整備検討委員会については、3月6日に第1回の委員会を開催する。庁舎についての住民投票は適さないものと考えている。

